

金魚風呂で癒し

●東郷青児タイル画と

「金魚風呂」なるものがある。聞いて訪ねた。山王一丁目の旅館明泰は戦前の木造二階建てながら、気楽できれいな日本間と豪華な家具の明るい洋室が自慢だ。浴槽は金魚が泳いでいるのかと思えば、大小二つある風呂場のそれぞれに水槽を設け、十数匹の金魚を眺めながら湯につかるという趣向。二坪ほどの大浴場は東郷青児の絵を模したタイル画もあるモダンな造り。面白いのは

世を非難しているし、エジプトの口ゼツタ石に描かれた絵文字にも「今時はダメ」とあったという話まである。

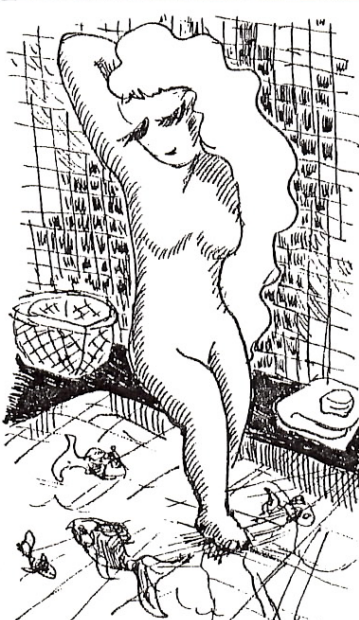
社説

いつの時代も今がダメ?

時代の共有

たった二百年前には毎年飢饉におびえ、幼いときから親を離れ働くのが当たり前の時代もあったが、いつの時代も

昔は良かった話と、今の若者はダメという話はセットになって何の時代にも現れるようだ。ギリシャ時代のプラトンは「国家」という本の中で民主制に傾倒する若者達を自堕落で勝手な年長者の意見に聞かないと今の



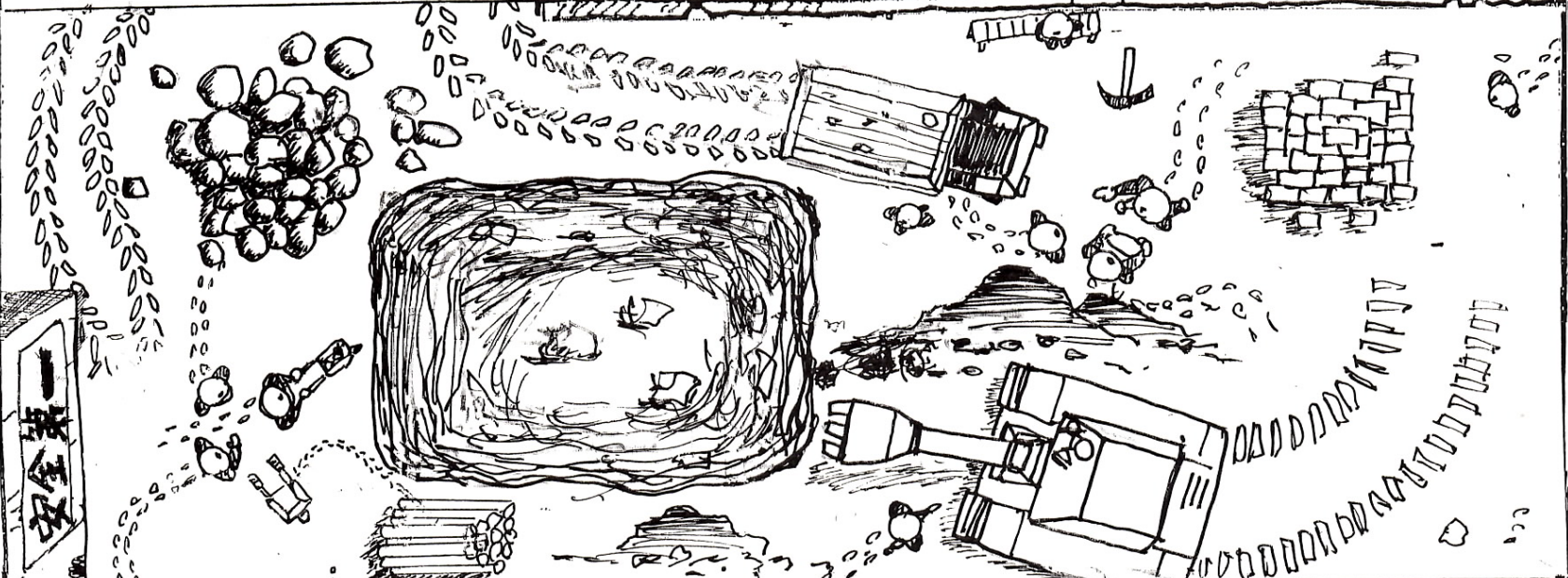
隣の小さい方。洗い場の床が一部がガラス張り。その下に水槽がある。流れるお湯越しに真上から金魚を見る格好だ。当初は多くの同業者も見学に来た名物は、当主・西村実さん(46)の義母ハナさん(77)の考案。旅館明泰を創業し、奈良の飛鳥池の畔に観光旅館を建てるな

どなかなかの才人で、豊中から来て間もない西村さんを何かと引き立ててくれたという。「エサやりや掃除など大変だが、これをやり続ける密も多し」と西村さん。金魚とともにのんびりすれば一日の疲れも癒されるだろう。

●求人廣告●
新聞記者 西成
男女問はず、経験不問
山王一五〇三二番地西成内
ブイカプロジェクト
(電話)〇七〇・五〇四九八六六七

北浜で喫茶店を経営していたハナさん(38)は、友人のツテもあって西成の新住民となった。ビル地下にあった店は周辺の証券会社や金融関連に勤めるサラリーマンやOLで大賑わい。特に風通ぎは大変だったことが思い出される。ところが銀行や郵便局が土曜日を休みにしたこととぎつかけに客足が落ち込んだ。「もうアカン」と思い切って店を畳んで商売の立て直しを決意。住まいも移し、奥さんと共に新天地聖天下で小さな喫茶店「ストップ」を開いた。今度は地上の店であるため店内からは一戸建の広い家も少なくない静かな住宅街が見える。お客さんの多くは近所の主婦たちだが、聖天山公園で朝のラジオ体操を済ませたお年寄りや建築現場で働く若い職人たちがやってくるようになった。今日も道行く人の足を止めながら次第に地元馴染んできている。

ストップ



創造活動拠点
新福寿社
山王1-11-5
070-5046807

珈琲 ストップ
聖天下1丁目4-39

来れ!編集会議
西成なるへそ新聞
【とき】11月30日(木)
11月30日(土)
12月1日(日)
12月21日(土)
12月22日(日)
山王1-11-5

音のすみずみ
まほろば荘
西川文章・米子匡司
音の展覧会12/16
#13
山王1-5-31
新・福寿社内

田村豆腐製造所
フキヤキ
山王2-13-28